

2026 年 1 月 5 日

各位

ENEOS Xplora 株式会社

2026年社長（忍田 泰彦）年頭挨拶について

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

当社社長（忍田 泰彦）の社員に向けた年頭挨拶の要旨を下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2025 年 9 月に実施した本社移転について

麻布台ヒルズの新本社オフィスで迎える、初めての新年となった。新たな環境で、部門や役職を超えた協働をさらに促すことで、当社が挑むさまざまなチャレンジを確かな成果へと繋げていきたい。

当社は、ENEOS グループの主要な事業会社として、石油・天然ガスの開発・生産を通じて、エネルギーを持続的に供給し、豊かで活力ある未来づくりに貢献することを使命としている。この使命を実現するためにも、社内外とオープンに対話し、積極的に議論・協力すること、そして、自律的に考え、自らを導いて進んでいく人財として新たな価値を生み出していくことを目指してほしい。

2. ENEOS グループにおけるガス事業の当社への一元化について

本年 4 月 1 日付で、ENEOS グループのガス事業が当社に統合されることとなった。この統合を通じて、天然ガスサプライチェーンの上流・中流・下流が当社に一元化され、資本・人財の最適配分、意思決定の迅速化が可能となる。これにより、新たなビジネスチャンスを的確に捉え、グループの成長戦略の実現を進めていく。

3. 各事業・プロジェクトへの思い

ベトナムでは昨年、油田での新たな生産分与契約を締結しての操業となったほか、ベトナム北部での CCS*¹事業立ち上げに向けた覚書を締結した。同国における事業のさらなる飛躍に繋げる 1 年にしたい。

マレーシアでは、昨年、SK10 鉱区の生産分与契約を 10 年延長するという記念すべきマイルストーンに到達した。本年は、ペトロナスと協力しながら、CCS を伴ったガス田開発事業である「BIGST プロジェクト」の一層の進化と具体化を図るとともに、さらなる事業拡大に向けて取り組んでいく。

中条事業所は、水溶性ガスおよびヨードの段階的増産を図り、継続的に利益を生み出す事業体制を構築し、安

全・安定した生産操業を継続するための土台作りに引き続き取り組んでいく。

インドネシア、パプアニューギニアのプロジェクトは、当社の将来のキャッシュフローを大きく支える事業である。昨年、インドネシア・タンガーLNG プロジェクトでは、CCUS*²を含む拡張プロジェクトの開発作業を進めた。また、パプアニューギニアでは、Papua LNG プロジェクトの最終投資決定にむけた準備を進めている。両国におけるさらなる事業拡大に向けて取り組んでいく。

中東事業は順調な生産が続いている。産油国政府、事業パートナーと密に連携し、安定操業を継続する。

米国 Petra Nova CCUS プロジェクトは、一層の安全・安定操業に努め、フラッグシッププロジェクトとして CO₂ 貯留量の拡大を推進していく。

国内での CCS 事業については、先進的 CCS 事業として JOGMEC から正式に採択された 2 案件について、引き続き取り組んでいく。

4. 最後に

当社の企業活動の大前提は、「HSE*³」であり、「コンプライアンス」である。これらの取り組みについて、今年も変わらず、皆さんと力を注いでいく。

国内外すべての社員とパートナーの皆様、そして、そのご家族の、ますますのご健勝とご発展をお祈りする。

以 上

*¹ Carbon dioxide Capture and Storage の略。排出される二酸化炭素を回収し地下に圧入する技術。

*² Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage の略。CO₂ を回収・貯留することに加え、新たな商品やエネルギー生成のために利用する技術。

*³ Health（健康）、Safety（安全）、Environment（環境）の略。衛生・労働安全・環境保全を指す。



年頭挨拶を述べる忍田社長